

あなたも執筆参加しませんか

「オレンジの旗」第10集の原稿を募集

テーマは自由です 締め切り来年1月末

新聞OB会結成三〇周年記念号



新聞産業の退職者懇談会（略称「新聞OB会」）は来年（2012）9月、結成30周年を迎えます。新聞OB会ではこれを記念して来年5月までに、新聞OBらによる合同自費文集「オレンジの旗」第10集を発行することになりました。世相は混沌としており、東日本大震災と巨大な津波による被害からの復興・復旧は遅々として進まず、東京電力福島第一原子力発電所の人災事故も深刻な状態から脱出できないでいます。

特に福島原発事故では、東京電力が明らかにした「原子炉溶融」

「オレンジの旗」だより

新聞産業の退職者懇談会
（略称：新聞OB会）出版委員会
東京都文京区本郷2-17-17
井門本郷ビル6F新聞労連内
TEL03(5842)2201
FAX03(5842)2250
振替0130・7・174449

（マルチダウン）が事実なら一刻も猶予できない事態です。高濃度の放射能物質が大気中に拡散し、地中深く浸透し、海水まで汚染しているとなると、再び元の生活に戻るのは容易でない、との専門家の指摘もあり、まさに「国難」という状況です。

こうした状況のなか、国民の関心の的はマスメディアの報道姿勢に向けられています。なかでも「社会の木鐸」と呼ばれてきた新聞：全国紙やプロック紙だけでなく、すべての新聞・通信社に対して、その在り方に批判的な声が充満しています。

一方、新聞経営の危機も伝えられ、新聞OBとしてはやりきれない気持ちで過ごされている方も少なくないと思います。

合同文集「オレンジの旗」は新聞OB会の重要な事業の一つとして、新聞産業の状況を見据えて、「語り部」活動として位置付けて取り組んでまいりました。

1992年に「結成10周年」を記念して第1集を発行、その後、多くの皆さんのご支援により2年ごとに計画し、2008年9月に第

9集を刊行してきました。これまでの内容は、新聞・通信社で働き続けてきた体験を含め、次世代の人々への「語り部」、活動にふさわしい内容であったと自負しています。

「文章を作るのは苦手だ」「何を書いたら良いのか迷ってしまう」など躊躇されているみなさん、ご

自身の率直な気持ちを「つぶやき風」に、あるいは、「日記」をしたためるように気軽に書いてお送りください。

多くの方々からの執筆参加をお待ちしています。

二〇一一年十月
新聞OB会 出版委員会

「オレンジの旗」 目次

- 第1集（92年5月1日）
白髪と青春
戦火と廃墟の中から
新聞労働運動のはざま
わが人生のひとこま
- 第2集（94年10月1日）
戦後50年平和への思い
わが人生と新聞労働運動
山陽新聞闘争の思い出
新聞のメシを食って
自分史の周辺と定年
- 第3集（96年7月20日）
沖繩問題特集
基地のない沖縄を返せ
新聞は何をしてきたか
新聞労働運動歩みの中で
あの戦争の嵐に生きて
豊かな自分史をめざして
- 第4集（98年8月1日）
ひたむきに不屈に生きて
歴史のひとコマなかかわって
21世紀の新聞と「新聞の危機」
報道の姿勢について考える
第二の人生も多事多端
- 第5集（00年5月1日）
あの戦争に翻弄されて
記者人生ひたむきに
新聞は腰抜けになった
平和と友好・輸転機と青春
この老後に明日を求めて
地域に根ざしてがんばる
先立たれ、呆けられて
- 第6集（02年5月15日）
あの戦争の嵐に揉まれて
新聞労働運動の渦の中で
情報技術の進展とベンの世界
平和・友好・医療・
公害に関わって
いつも現役の意気込みで
変容する地域の只中で
旅あり哀歓あざなわれて
- 第7集（04年7月20日）
私にとって戦争と平和
（1・2・3・4）
新聞労働の現実と戦いの伝統
わが記者人生の今と回想
趣味の世界、みんな楽しんで
運動、病氣、看取り
- 第8集（06年7月30日）
戦争と平和の岐路にたつて
（1・2）
あの戦争は……体験を語り継ぐ
疲弊した政治と社会を憂う
新聞産業のいま、OB会のこと
「生涯現役」で地域を生きる
短歌・俳句と随筆と
- 第9集（08年9月30日）
戦争と平和の岐路にたつて
あの戦争は……体験を語り継ぐ
戦後63年新聞報道の在り方を問う
短歌・俳句・川柳
随筆 エッセー 随筆
（目付は刊行日）

刊 行 要 領

1. 発刊の趣旨

書名のサブタイトルにある「新聞OBわが人生」は、創刊号からずっと踏襲してきたものです。新聞産業における労働など、戦中、戦後の様々な体験や感慨を手記集としてまとめ、お互いの生きるよすがにしたいと思えます。さらに、一回りも二回りもひろく購読者をひろげるためにご尽力をお願いいたします。

2. 第10集のテーマ

今回の東日本大震災と津波、原子力発電所の事故に見られるように、いのちと暮らしを守るという観点、さらにきな臭い戦争の危機と平和を求める気持ちを綴って下さい。新聞メディアをめぐる状況も深刻です。“IT時代”と今日の「国難」に立ち向かうべき「新聞の役割」や「新聞の原点」に迫る課題についても綴ってください。さらに、一人ひとりのこれまでの生きざまや人生の哀歓を含めて、自由なテーマを選んでください。

3. 書名・体裁など

◇書名＝新聞OB会結成30周年記念合同文集

『オレンジの旗—新聞OBわが人生』第10集

◇体裁＝A5判並製・カバー付 ◇刊行予定日＝2012年5月末日

◇刊行部数＝1000冊 ◇頒布予定価格＝1冊 1500円（送料込み）

4. 執筆参加の要件と贈本など

①まず、同封のハガキで執筆参加の申し込みをお願いいたします。執筆考慮中の方もお知らせください。

また、寄せられた「ひとこと」は第10集に新聞OB会結成30周年記念「ひとこと集」として掲載します。

②「合同自費出版方式」により、執筆分担金は原稿1点2000字で15,000円（新設）、1点4000字で25,000円とします。詩歌、短歌、俳句などは1ページ当たり5000円とします。

③執筆者への贈本冊数は、2000字原稿1点で5冊、4000字原稿1点で10冊、詩歌・短歌・俳句などは1ページにつき2冊をそれぞれ贈本します。

5. 購読の予約と販売普及

購読をご希望の方、さらにご友人などに販売普及していただける方は、その希望冊数を同封ハガキにご記入いただき11月末日必着でご返信ください。

6. 執筆原稿の形態・様式・送付方法・締切日

①原稿は縦書きを原則とし、パソコンやワープロでの入力データで下記アドレスに送付してください。

メールアドレス：sinbun1502@gmail.com

②やむをえず手書きの原稿の場合は下記へ郵送してください。出版委員会が入力処理します。

〒130-0033 文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル6F（新聞労連気付）

*必ず「オレンジの旗」原稿と朱書で新聞OB会出版委員会あて

③筆者校正を行いませんので数字、単位、人名、地名などは正確を期し、難読文字にはふりがなを付けてください。

④原稿の締切日は2012年1月末日（厳守）とします。

7. 執筆分担金の送り先

執筆分担金は原稿送付と同時に「郵便為替」で下記にご送金してください。

郵便為替番号 「新聞OB会出版委員会」No. 00130・7・174449

出版委員会は、新聞OB会の役員を中心に構成されたメンバーから成り、『オレンジの旗』第10集の刊行事業を担当します。新聞OB会に「出版特別会計」を設け、決算上で欠損を出さないよう万全を期します。

私たちはこの第10集を「語り部活動」の一つとして受け止め、広く普及するために努力いたします。どうか会員・会友の皆さんも、積極的に執筆参加をお考えください。そして、一人でも多くの方々に第10集の購入を呼び掛けてください。重ねてご協力をお願いいたします。